

## S10-5

### 皮膚乾燥のある患者に入浴剤の使用を試みて

自動車事故対策機構千葉療護センター 看護部<sup>1)</sup>、

自動車事故対策機構千葉療護センター<sup>2)</sup>

○田辺 明子<sup>1)</sup>、三原 陽子<sup>1)</sup>、當間 絃美<sup>1)</sup>、内山 成恵<sup>1)</sup>、三上 千景<sup>2)</sup>

【目的】遷延性意識障害患者における身体の清潔は感染症の予防、QOLの観点から重要な看護ケアである。千葉療護センターでは室温25度湿度50%の環境で、週2回の入浴と入浴日以外の全身清拭を行っているが、患者には皮膚の乾燥、落屑が目立ち、ワセリンや乳液塗布などでの保湿保護ケアが欠かせない。肌水分測定では、患者全員が30%前後と乾燥傾向にあった。当センターの入院患者の乾燥肌を健康な皮膚に改善する方法として保湿効果のある入浴剤の使用を試み結果を得たので報告する。【方法】皮膚疾患のない60歳以下の患者の中から乾燥が目立つ15名を対象に10月1日から11月30日の2ヶ月間、セラミド配合の保湿効果のある入浴剤を使用した。入浴日にはかけ湯とし、清拭日は全身清拭後、入浴剤液を含ませた蒸しタオルを全身に押し当てた。評価は使用開始前と2ヵ月後に上肢と下肢の肌水分測定を行い測定値の比較をした。また看護師へのアンケートで使用者評価をとった。【結果】最高9.6%最低2.1%と対象者全員に肌水分値の上昇（改善）が見られた。平均では上肢3.7%、下肢5.2%の上昇があった。看護師のアンケートでは68%が改善したと回答した。【結論】皮膚が乾燥傾向にある患者にセラミド配合の保湿効果のある入浴剤を日々の清潔ケアに使用し、皮膚の清潔を保ちつつもセラミドの欠乏を防ぎ、乾燥改善が得られた。遷延性意識障害患者の看護において健康な皮膚の状態を保つことは感染症予防からも看護の質につながり、不快感の少ない簡便な方法として入浴剤も利用できることを報告した。